

## 授業の玉手箱

*Haiku in English can be an interesting teaching material.*

NAKAI, Hirokazu

Haiku is the most popular poetic form for Japanese people. Why do we like haiku? A haiku is about daily life. A haiku describes particular things, often two contrasting things. A haiku records a moment on enlightenment---a sudden discovery about life. A haiku is usually about a season of the year, often a haiku contains a kigo, a "season" word. It is very simple but very profound in meaning. To write a haiku one must be awake to the world. For when the mind is present and not asleep or crowded by thoughts, one can see clearly what is really there. Sometimes this discovery seems like a surprise, although it was there all the time. This is, I guess, why we like Haiku.

A haiku in Japanese has just 17 syllables: five syllables in lines 1 and 3, seven syllables in line 2. "湖" mi-zu-u-mi has 4 syllables, but "lake" has 1 syllable. So, it is a little troublesome to follow exactly Japanese Haiku style. Why don't we let our students write a 3-short-line poem, which describes daily situations in a way that gives the reader a brand new experience of a well-known situation. The best haiku are usually written from one's real experience in the moment, in the here and now.

In addition, it arouses our students' intellectual curiosity to research the image of kigo, how we feel about a kigo. (ex. see the right figure 1.)

A warm breeze flows  
though my open window  
pushing my papers aside  
L.S. Winder USA

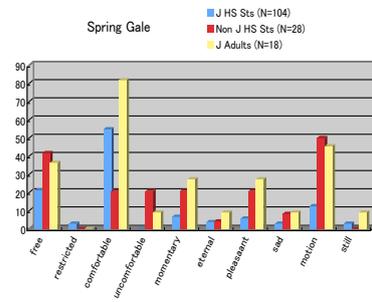


Figure 1: How we feel about spring gale  
中井 (1990) 『地球サイズの歳時記論考』より

### 書籍紹介

『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』  
投野由紀夫 (編)、大修館書店 (2013)、3,200 円、313 ページ

CEFR-J は、欧州評議会が開発された CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の日本版である。大学の研究者らによって構築された CERF-J は、日本の英語教育で利用することを目的とした英語能力の達成度指標であり、10 年の歳月を費やした英語コミュニケーション能力到達基準策定のための諸研究と大規模な検証に基づいている。本書は、その CEFR-J のガイドブックである。

Part1 ではまず CAN-DO リストの原典である CERF について、その歴史的背景や理念から、利用指針、準拠教材や言語テストまで説明している。Part 2 では、CEFR-J について説明し、続く Part 3 では、CEFR の活用方法を各レベルの CAN-DO の特徴とその指導法、さらに実際のスキルとの関連において具体的に説明している。

日本の英語教育において CEFR が市民権を得た背景には、言語に関する知識の教育ではなく、実際の言語使用場面での活動を通じたコミュニケーション能力の育成を目指す CEFR と、コミュニケーション力重視へ転換を図ろうとしている日本の英語教育の理念が同期したことがある。しかし一方で、複言語主義を標榜する欧州と日本の言語使用環境には大きな隔りがあることも否めない事実で、CEFR をそのまま日本の英語教育に適用することには無理があった。実際、CEFR-J では A1 レベルの前に、日本固有の PreA1 レベルを提唱している。

本書の最大の特徴は、CAN-DO リストに落とし込まれたスキル別の



デスクリプタ (descriptor) と呼ばれる能力記述である。これらのデスクリプタに習熟することによって、現場の教員は観点別評価の基準と規準を研ぎ澄ますことができ、これに縦軸の PreA1, A1, A2, B1, B2, C1, C2 の習熟レベルを織り込むことによって、小学校から大学までの一貫した英語カリキュラムのなかで足元を踏み固めることができる。さらに、具体的指導法が丁寧に解説されていることが、日本のコンテキストのなかで CEFR にリアリティを持たせることに一役買っている。手元において重宝する 1 冊である。

(東條 加寿子)

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習 1・2」 平成 26 年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名

■講習1 平成 26 年 8 月 5 日 (火) 9:10 ~ 16:40

「言語文化としての英語表現」

・生の英語表現 一言語と文化の関係性や言葉の力の理解ー

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・生き生きとした英語表現活動 一日英感覚の違いから起こる英語表現の味わいー

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【生の英語表現】国際社会の様々な場面での「生の英語表現」を取り上げ、その英語表現が背景にどのような文化や発想の違いがあるのかを考え、その関係性や言葉の力を理解するとともに、「生の英語表現」を学ぶ喜びを引き出すヒントにしたい。【生き生きとした英語表現活動】「発音・音読による英語表現」、「日英感覚の違いの英語表現の味わい」、「英語で表現する創作表現活動」など実践的な活動を取り上げ、授業の基盤構想力の育成に努める。

■講習2 平成 26 年 8 月 6 日 (水) 9:10 ~ 16:40

「発音・音読指導、リーディング指導、文法表現指導」

・発音・音読指導

夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授

・リスニングとリーディング指導の接点を考える

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・わかる・使えるようになる文法指導の工夫

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。【リスニングとリーディング指導の接点を考える】リスニング (音声情報) とリーディング (文字情報) を関連付けたスラッシュリーディングの指導法について考える。【文法表現指導】英語を使ったり表現し合ったりするための「わかる」「使えるようになる」文法指導のステップを中学校や高等学校での指導例をもとに考える。

### ■ 受講申し込み受付

平成 26 年 4 月 17 日 (月) より 7 月 19 日 (土) までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法) 教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前 (漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料 5,000 円 (所定の口座へ振り込み)



### 編集後記

A ship in a harbor is safe, but that's not what ships are built for.

(港の船は安全だが、船はそんなために造られたのではない。)

航海術は羅針盤の改良によって著しく発達した。本学の教職課程も設立理念という羅針盤 (方位磁石) を持って更なる航海を続ける。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp